

6.標準仕様を適用した場合のイメージ

標準仕様に沿ってノンステップバスを開発するとどのようなイメージになるかについて、バス製造会社に委託して図面を製作した。以下に掲げるイメージは、原則として2005年以降標準仕様を満足するように作成したものである。また、使用される路線や用途を考慮して大型ではA、B、Cの3パターン、中型ではA、Bの2パターンで作図されているが、この区分はおおよそ表6.1の通りである。

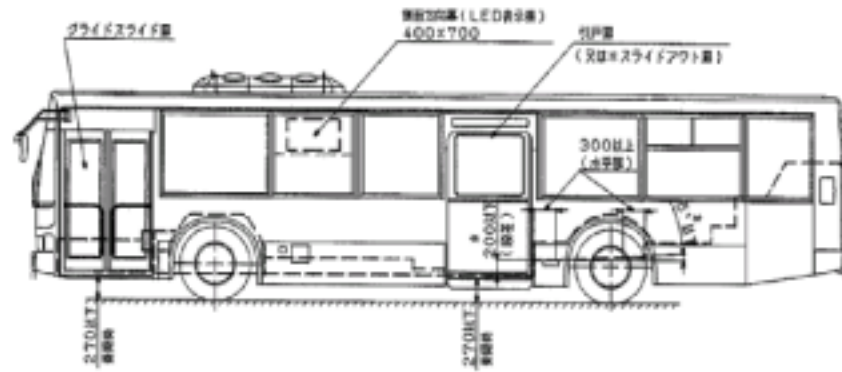
表6.1 パターンA、B、Cの特徴

	パターンA (頻繁乗降型)	パターンB (同時大量乗降型)	パターンC (長時間乗車型)
運用地域	都市内の循環路線など大量かつ頻繁に乗降するような地域を想定	駅と周辺団地を結ぶ路線など同時に大量乗降するような地域を想定	中心部と郊外を結ぶ路線など比較的長時間乗車するような地域を想定
運用形態	単区間運用 前乗り・中降り 均一運賃方式	多区間運用、大量同時乗降 中乗り・前降り 整理券方式	多区間運用 中乗り・前降り 整理券方式
重視される性能	車内移動性、乗降性、乗車定員、立席安定性	着座性、乗降性	座席定員、座り心地、走破性
車両構造の特徴	広い通路幅、車いすスペース	広い開口部、車いすスペース	全席前向き
低床部の座席配列 (優先席を除く)	一人掛け前向き座席	横向き座席	二人掛け前向き座席

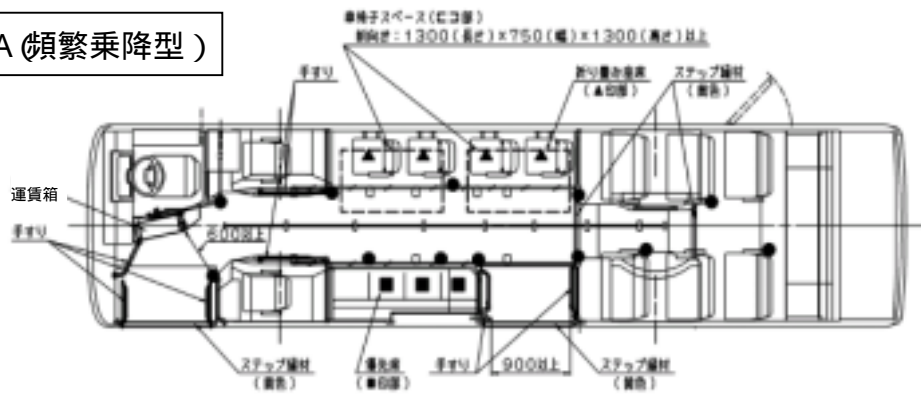
6.1 大型 ノンステップバス

図6.1及び図6.2は車両の幅が2.5m、車両の長さ10.5mと11mの大型バスのイメージ図である。それぞれパターンCの場合は車いすスペースを1脚とし、全席前向きとなっている。いずれも2005年以降標準仕様の数値を満たしており、通路幅も600mmが確保されている。

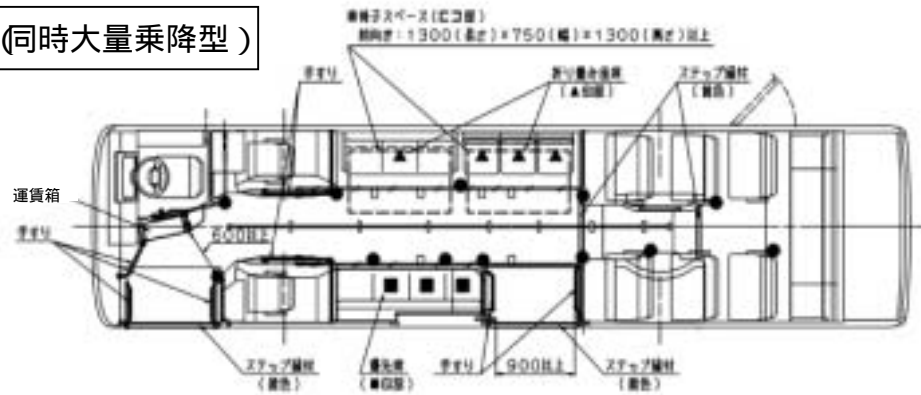
2.5m幅、10.5m長 代表例



パターンA (頻繁乗降型)



パターンB (同時大量乗降型)



パターンC (長時間乗車型)

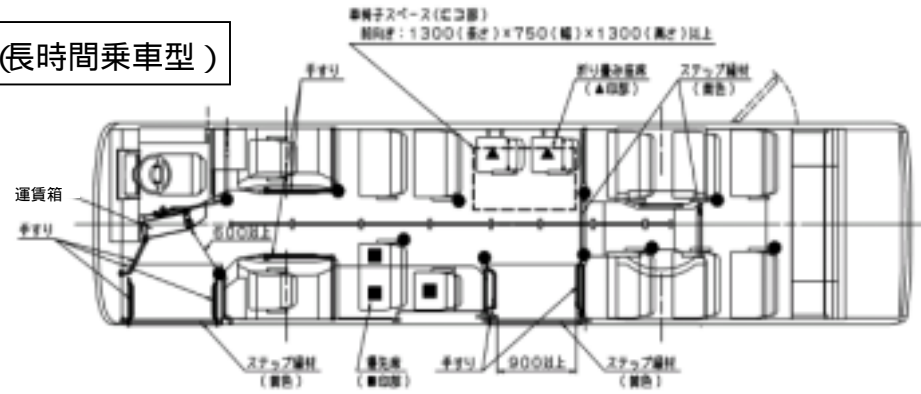


図6.1 標準仕様を採用した2.5m幅 10.5m長 大型ノンステップバスのイメージ (市場販売車ベースに、標準仕様の要件を入れたイメージ図)

2.5m幅、11m長 代表例

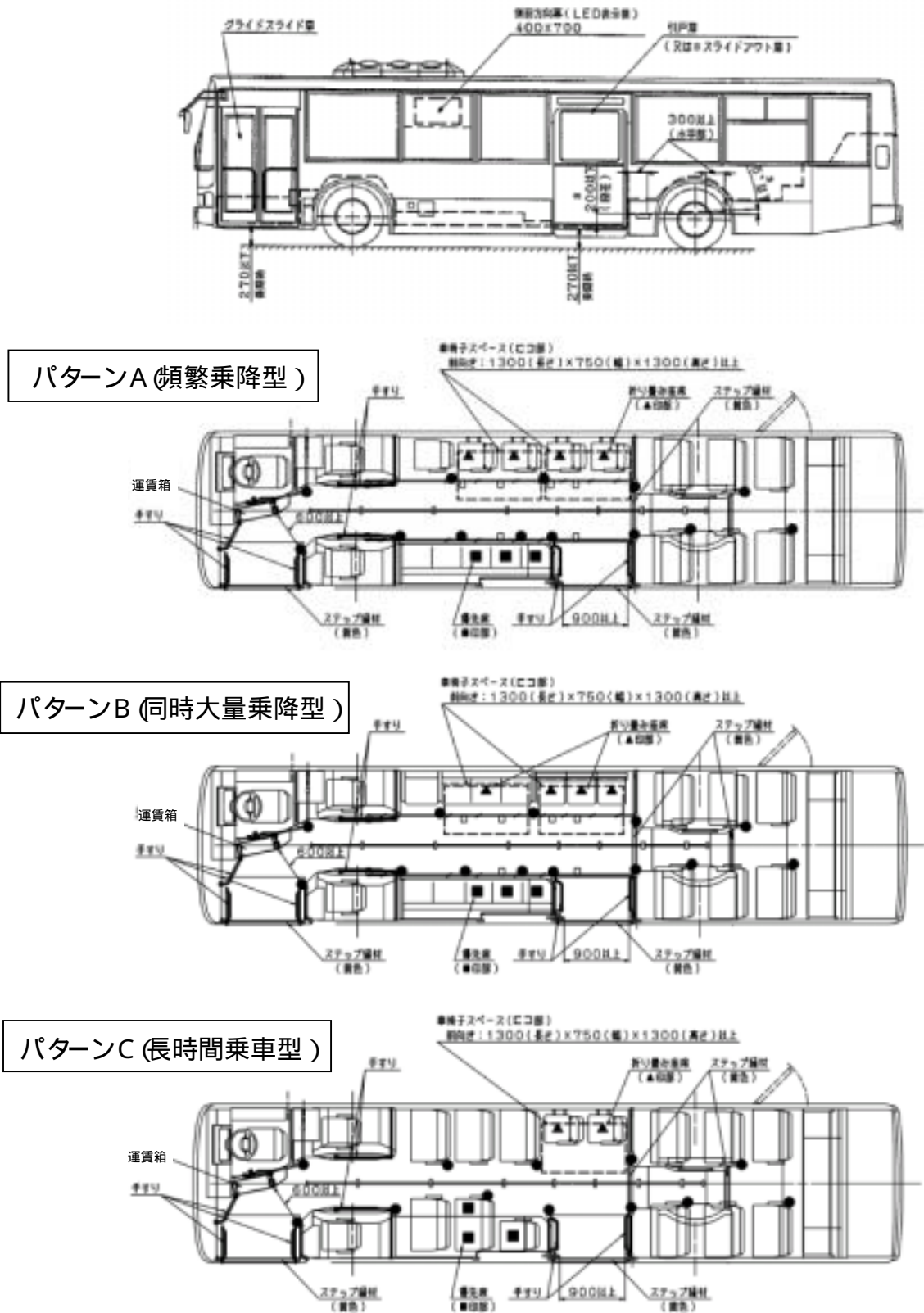
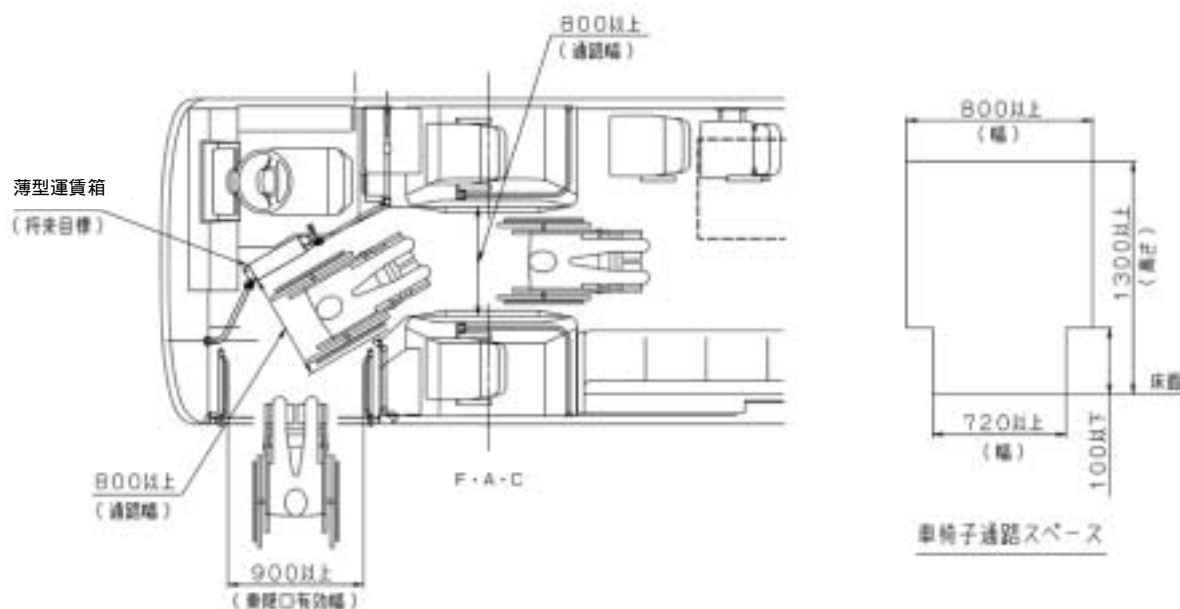


図 6.2 標準仕様を採用した2.5m幅 11m長 大型ノンステップバスのイメージ
(市場販売車ベースに、標準仕様の要件を入れたイメージ図)

また、図6.3は、車いすの前乗り乗車を可能にした例である。この場合は、試験車に採用した薄型の運賃箱を採用することにより800mmの通路幅を確保しているが、それでもタイヤハウスの関係などで床面の通路幅800mmを確保することは難しく720mmにとどまっている。ただし、床から100mm以上高い部分は

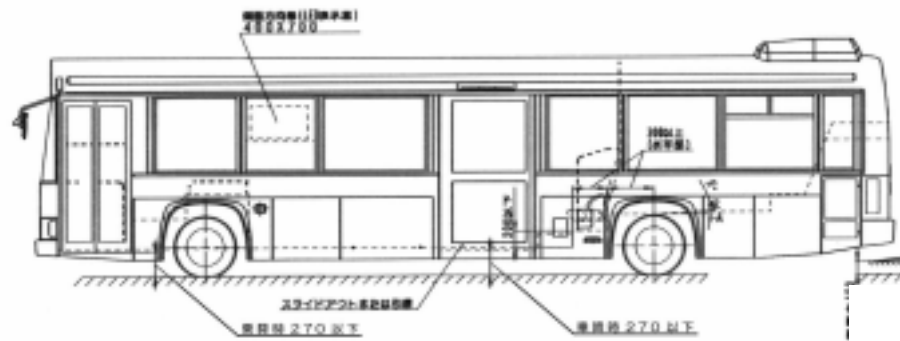


800mm以上確保されるため、実際に車いすの操作を行う上で支障は生じないものと思われる。

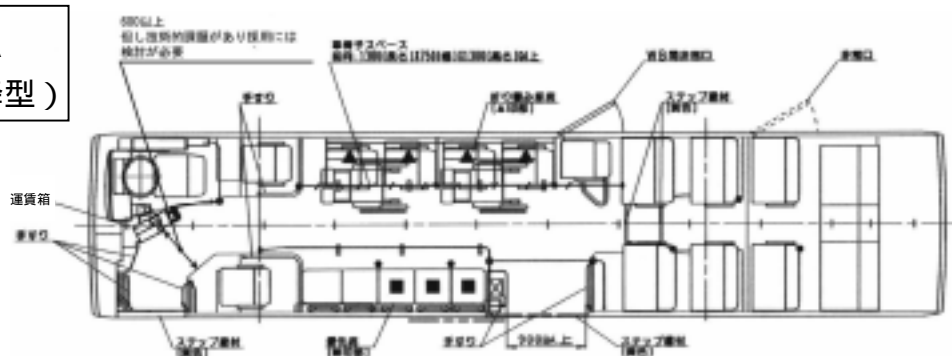
図6.3 車いすの前乗りを可能にする場合のイメージ
(図面上で机上検討したイメージ図)

図6.4は2.3m幅、10.5m長の大型ノンステップバスである。この場合もパターンA、B、Cの座席配列に合わせて作図されており、パターンCでは車いすスペースを1脚としている。薄型運賃箱とスライドアウトドアを採用することによってパターンAとBでは600mmの通路幅を確保しているが、パターンCでは多少通路幅が狭くなっている。なお、この中のパターンBが今回試作した試験車に相当する。

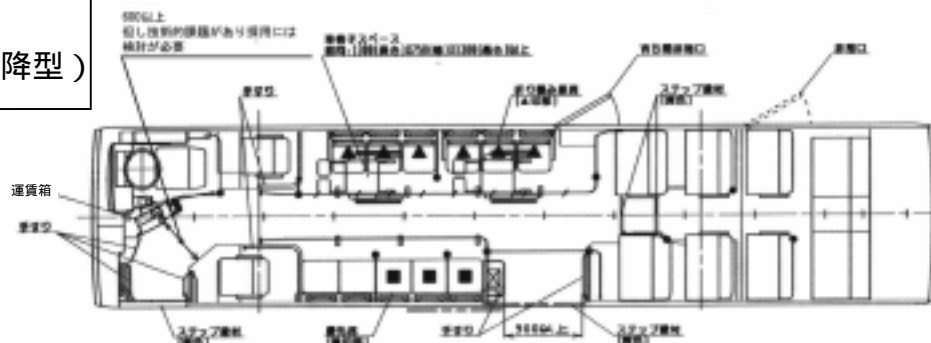
2.3m幅、10.5m長 代表例



パターンA
(頻繁乗降型)



パターンB
(同時大量乗降型)



パターンC
(長時間乗車型)

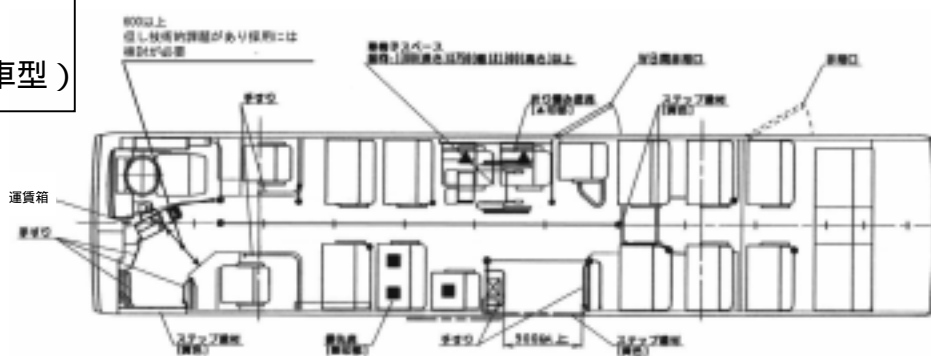


図 6.4 標準仕様を採用した 2.3m幅 10.5m長大型ノンステップバスのイメージ
(市場販売車ベースに、標準仕様の要件を入れたイメージ図)

6.2 中型ノンステップバス

図6.5は2.3m幅、9m長のパターンAとBの中型ノンステップバスのイメージである。いずれの場合も車いすスペースを2脚分確保することは難しく、1脚となっている。

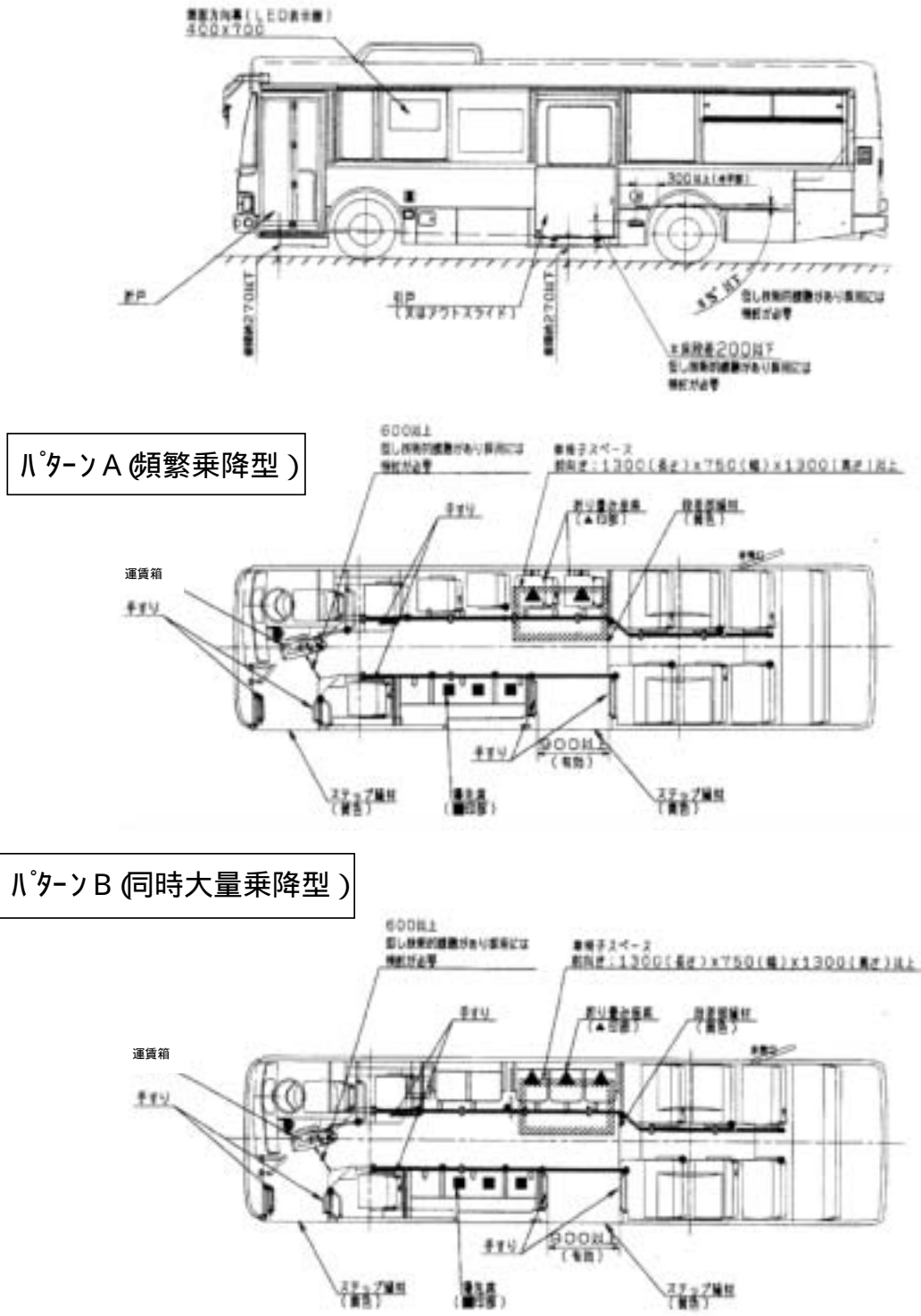


図 6.5 標準仕様を採用した中型ノンステップバスのイメージ

6.3 小型ノンステップバス

図6.6はRR(リアエンジン・リアドライブ)タイプの小型ノンステップバスのイメージである。車両幅2m、全長7mで、大型・中型と同様に車両の中間部に段差を持つ車両構造であり、中扉の開口幅は800mm以上が確保されている。このバスでは車いすを1脚乗車させた上で13席の座席を確保している。

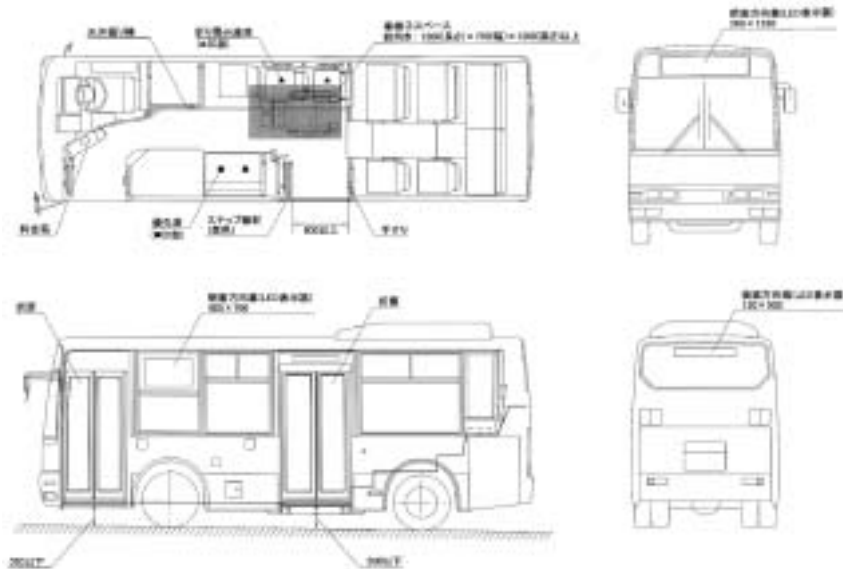


図6.6 標準仕様を採用したRRタイプ小型ノンステップバスのイメージ
(市場販売車ベースに、標準仕様の要件を入れたイメージ図)

図6.7はFF(フロントエンジン・フロントドライブ)タイプの小型ノンステップバスのイメージである。車両幅は2m、車両長は5.8mであり、車内はフルフラットとなっている。このバスは小型の中でも小さいほうであるが、乗車定員は20名、車いすを1脚乗車させた上で9席の座席数を確保している。また、車高調整装置は備えていないが、コミュニティバスとして隘路での運行を想定し、補助ステップを備えている。

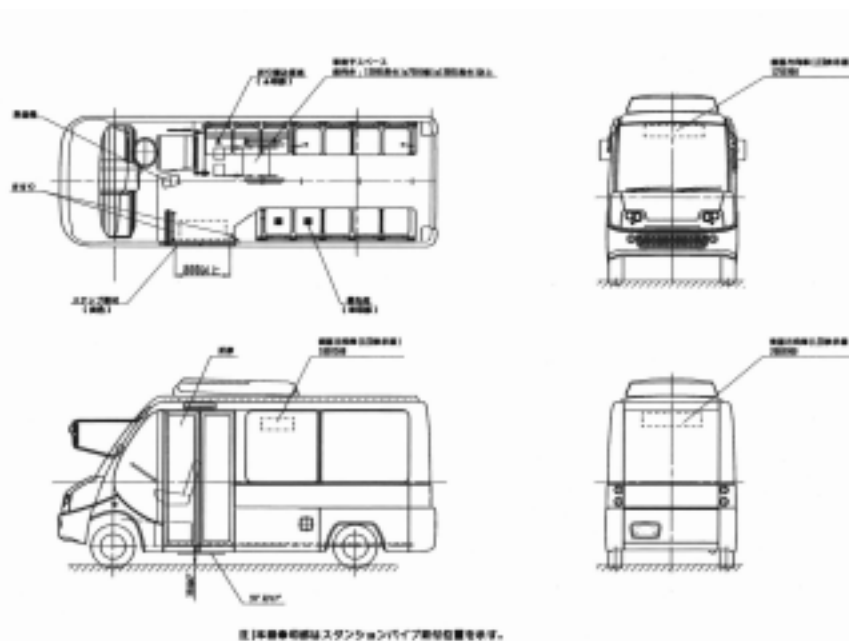


図6.7 標準仕様を採用したFFタイプ小型ノンステップバスのイメージ(1)
(市場販売車ベースに、標準仕様の要件を入れたイメージ図)

図6.8もFFタイプの小型ノンステップバスのイメージである。車両幅は2m、車両長は6.2mで、乗車定員は23、車いすを1脚乗車させた上で9席の座席数を確保している。車内はフルフラットとなっており、ドア開口幅も900mm以上が確保されている。このバスも車高調整装置は備えていないが、コミュニティバスとして隘路での運行を想定し補助ステップを備えている。さらに、このバスでは車両後部にもドアが設けられており、(b)に示すように、ここに車いす乗降専用のリフトを取り付けられるようになっている。このような方法も我が国でのコミュニティバスの一つの方向を示唆していると思われる。

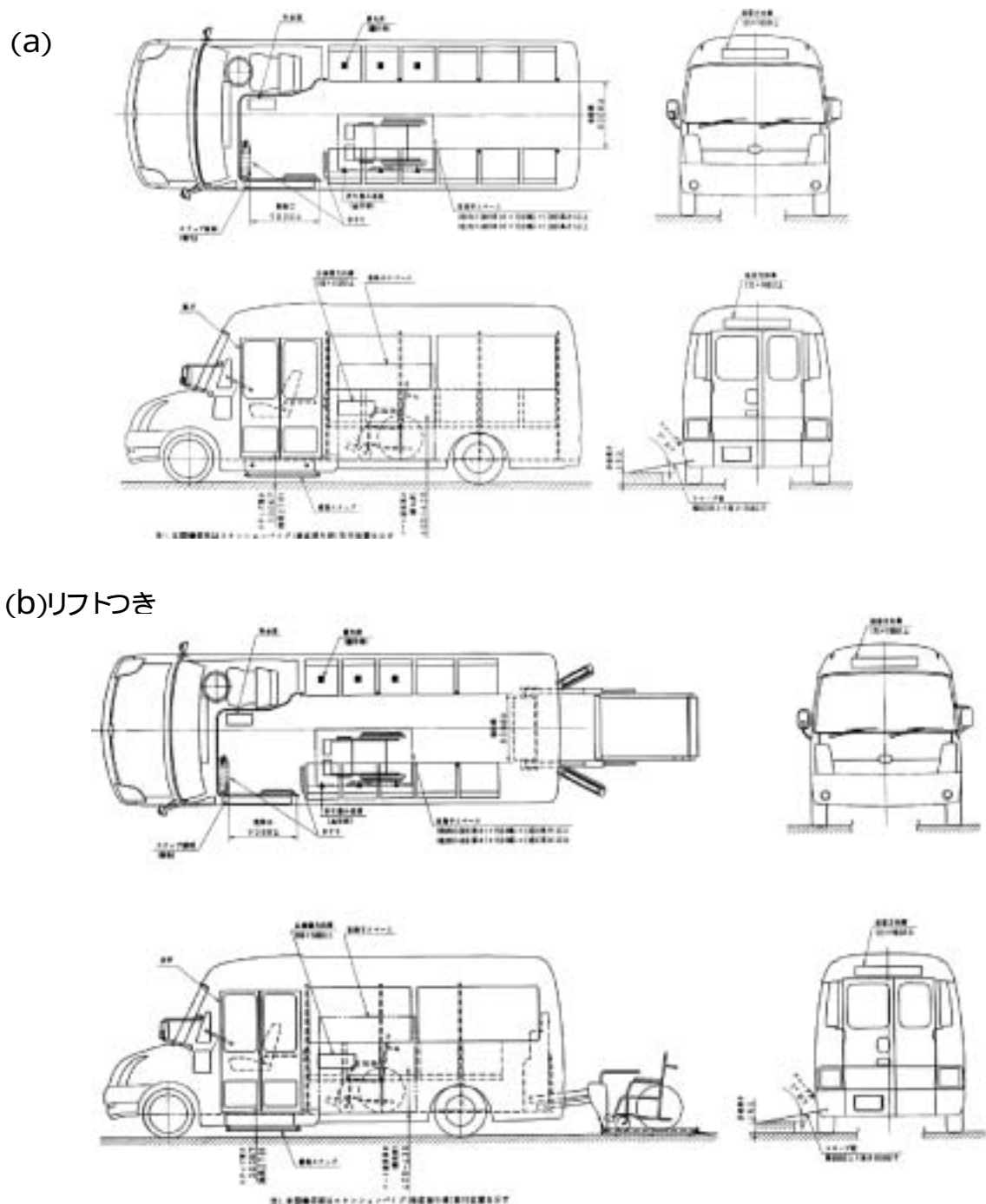


図6.8 標準仕様を採用したFFタイプ小型ノンステップバスのイメージ(2)
(図面上で机上検討したイメージ図)